

初台阿波踊り 参加報告

このたび当院は、第53回初台阿波踊りに参加いたしました。地域の皆さまと共に伝統行事に加わることができ、職員一同、大変貴重な経験となりました。当日は沿道から温かい声援や拍手をいただき、参加した職員も笑顔で踊り切ることができました。阿波踊りを通じて、地域の皆さまとの交流を深め、つながりを実感するひとときとなりました。



「コンパスの会」日帰りバス旅行

当院で治療を受けた患者さまとご家族で結成された「コンパスの会」は、定期的に交流会や行事を開催しています。6月23日には日帰りバス旅行へ行き、職員4名が参加しました。行先は銚子で、屏風ヶ浦観光、新鮮な海の幸の食事、しょうゆ工場見学と、参加者皆が非日常を楽しみました。職員は、坂道や段差などの移動が苦手な方のサポートを行い、「おかげで安心して楽しむ事が出来ました」といった感想が多く寄せられました。



「転倒予防体操教室」を開催

9月25日、船橋市リハビリセンターにて市民の皆さまを対象に「転倒予防体操教室」を開催しました。多くの方にご参加いただき、椅子を使った安全で取り組みやすい体操をスタッフからご紹介しました。参加された皆さんは終始にこやかで、一生懸命体操に取り組まれていました。ご自宅でもできる体操なので、ぜひ転倒予防として続けていただきたいと思います！終了後には希望者を対象にセンター見学会も行いました。今後も地域の健康づくりに貢献してまいります。



『こころいきカフェ(認知症カフェ)』開催！

昨年度より当センターではこころいきカフェを開催し4回実施しました。認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、当事者、介護者、地域住民、支援者がつながる場となることを願い設立されました。参加した介護者の方からは『介護中の悩みを話せて気持ちの整理が出来ました』『一人ではないと実感しました』といった言葉を頂いています。当センターが認知症カフェを通じて、地域住民からの信頼が得られるよう努めてまいります。



わくわくパン販売開始しました！

7月よりわくわく祖師谷さんが毎週木曜日(第一週目を除く)の12時から14時まで、パンの出張販売に来てくれることになりました。わくわく祖師谷さんは知的に障がい等をもつ方たちが通う生活介護と就労継続B型の多機能型事業所で世田谷区内の事業所で初めてパンの製造販売に取り組んでいます。パンは一つ一つ丁寧に包装されていてどれも具だくさんでおいしく丹精込めて作られています。ぜひ皆様お立ち寄りの際はご賞味ください。



季刊情報誌「輝NET」編集・発行 医療法人社団 輝生会 法人本部／〒151-0071 東京都渋谷区本町3-52-6 京西ビル2階 <https://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院	〒151-0071	東京都渋谷区本町3-53-3	TEL.03-5365-8500	https://www.hatsudai-reha.or.jp
船橋市立リハビリテーション病院	〒273-0866	千葉県船橋市夏見台4-26-1	TEL.047-439-1200	https://www.funabashi-reha.com
船橋市リハビリセンター	〒274-0822	千葉県船橋市飯山満町2-519-3	TEL.047-468-2001	https://www.funabashi-rehacen.com
在宅総合ケアセンター元浅草	〒111-0041	東京都台東区元浅草1-6-17	TEL.03-5828-8031	https://www.motoasakusa-reha.com
在宅総合ケアセンター成城	〒157-0072	東京都世田谷区祖師谷3-8-7	TEL.03-5429-2292	https://www.seijo-reha.com



kisei・kai
情報誌



2024年度 クリニカルインディケーターについて

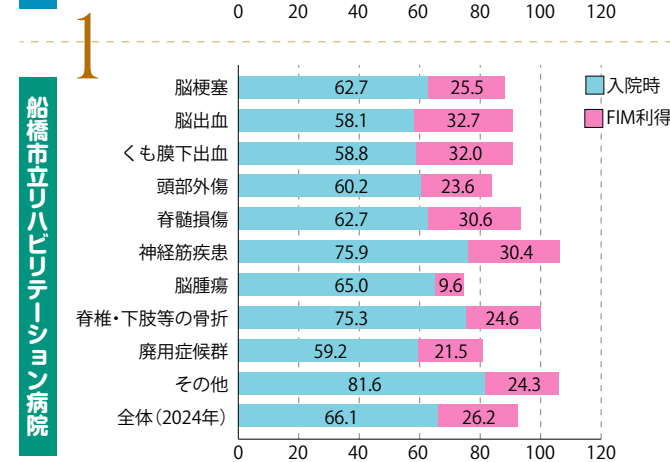
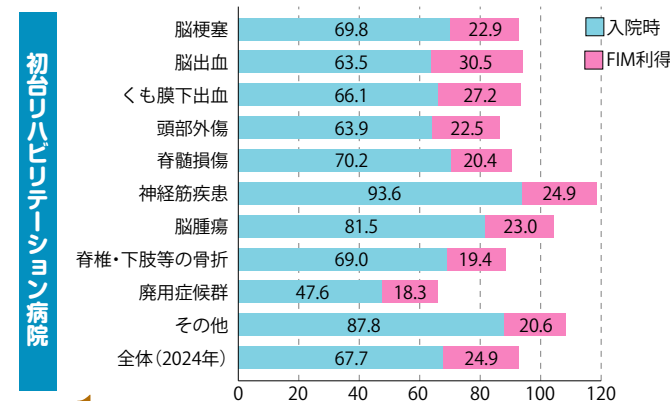
初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院の「2024年度クリニカルインディケーター」を、ホームページに公開しました。クリニカルインディケーターの指標のうち以下の2つについて、2024年度の結果に基づきご説明いたします。

1【ADLの改善(FIM利得)】

FIMとは、日常生活の自立度を示した指標です。数字が高いほど自立していることになります。入院時と退院時のFIMの差を「FIM利得」といい、数字の差が大きいほど改善されたことになります。

$$\text{FIM利得} = \text{退院時FIM} - \text{入院時FIM}$$

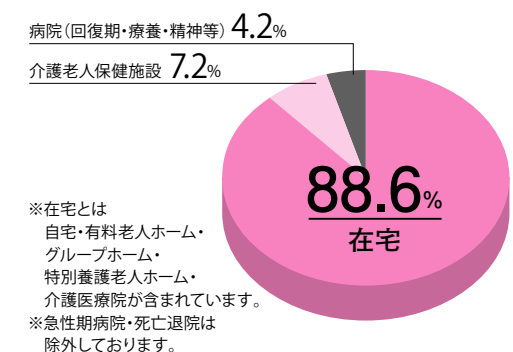
2024年度 FIM利得の結果は、平均で初台リハビリテーション病院は24.9点、船橋市立リハビリテーション病院は26.2点となりました。



2【最終退院先(在宅復帰率)】

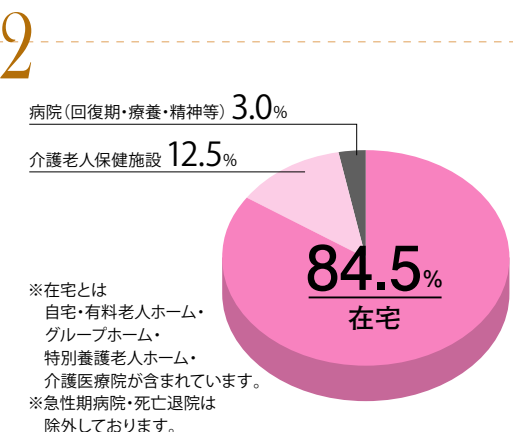
入院した患者さまが、当院でリハビリテーションを受けた後、退院された先を表したグラフになります。回復期リハビリテーション病棟は、厚生労働省の基準において、退院先が自宅(有料老人ホームなども含む)の割合が7割以上であることと定められています。回復期リハビリテーション病棟では、在宅復帰は大きな使命となります。

$$\text{在宅復帰率} = \frac{\text{自宅(有料老人ホームなども含む)}}{\text{2024年度に退院された全患者}}$$



詳細の転帰先データはこちらのQRコードで確認できます。是非ご覧ください。

毎年実績データを公開することで、患者さま・ご家族さまの信頼に繋がればと考えており、医療の質改善・向上を目指しております。



輝生会の
基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「情報」の開示
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「ノーマライゼーション」の実現

輝生会における
患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自らの意思で選択・決定する権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利
- プライバシーの保護を求める権利

日本リハビリテーション医学会賞受賞／水間理事長が第1回の医学会賞を受賞

水間理事長が、日本リハビリテーション医学会賞を受賞されました。本賞は、教育・医療・社会活動等によりリハビリテーション医学・医療の発展に顕著な貢献をした方に贈られる、今回新設された賞です。日本リハビリテーション医学会の理事や理事長として多くの事業に携わり、国際化推進等に貢献したこと、大学でリハビリテーション講座を立ち上げたこと、在宅総合ケアの発展に尽力したことなど、長年の貢献が評価されたものです。水間理事長に今回の受賞についてインタビューを行いました。

——この度は、誠にありがとうございます。受賞について、率直なお気持ちや受賞の経緯についてお聞かせいただけますか？



ありがとうございます。今回の賞は新設されたもので、学会に貢献し、理事や理事長として学会に関わったこと、学会の50周年の記念事業に携わったこと、第50回学術集会を主催した事、大学でリハビリテーションの講座を立ち上げたこと、地域リハビリテーション活動など、これまでの取り組みが評価されたのではないかと感じています。第1回の受賞者に選んでいただいたことは名誉だと思いますが、ひとつひとつの実績はたくさんの優秀な方々とともに作ってきたものであるため、個人でいただいて良いのかなという気持ちもありつつ、理事の方々、学会事務局の方など多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。

——特に印象に残っている出来事はございますか？

学会の経営が非常に厳しかった時期に、皆さんの力で立て直せたことです。公益法人化し、また学会の50周年を機に、英文の学会誌を発刊したり、国際リハビリテーション学会の誘致を進めたりと、学会の国際化のきっかけをつくることもできました。これらは決して私一人の力ではなく、多くの方々と一緒に取り組んだ結果です。

——理事長として現場・スタッフとのかかわりの中で、大切にしていることはありますか？

「話しやすい雰囲気をつくること」ですね。人の話を聞くという以前に、話しかけられる空気をどうつくるかが大事だと思っていました。上に立つという立場になると、どうしても周囲から距離を置かれがちです。でも私は、若い人たちの声を聞ける立場でありたいと思っていましたし、肩書きを気にせず本音で対話する姿勢を大切にしてきましたつもりです。更衣室などでも一緒にあったスタッフにはつい声をかけてしまいます。

——反省点などはありますか？

以前からかなり民主的な運営を心掛けていたのですが、今思うと、もう少しリーダーシップを発揮して、決めるべきところは決断すべきだったかもしれません。組織運営というのは、やはり「適材適所」とか「バランス感覚」がとても重要で、そのことを実務の中で学んだ気がします。

——今後、輝生会として取り組んでいきたいこと、強化したいことはございますか？

リハビリテーション医療の分野を引き続きリードしていくことですね。組織として、リハビリテーション医療に関わる人たちにとって模範となるような取り組みを続けたいです。さらには、「在宅総合ケア」を社会にしっかり確立し、患者さまのかかりつけ機能として根付かせることです。障がいを持った方々が、気軽に相談ができるような場にもなっていきたいと思います。20年、30年先を今のマネジャーたちや場合によってはサブマネジャーたちも含めて一緒になって考え、責任も持ち、その未来でさらに次の世代に引き継いで行けて、発信していく組織になればと願っています。

——忙しい毎日の中、リフレッシュはどのようにされていますか。

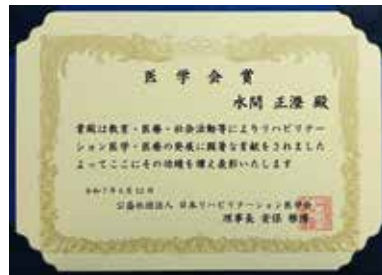
ゴルフ練習に行ったり、トレーニングしたりして、体を動かすことですね。輝生会にゴルフ部を作りたいとひそかに思っています。

——若い世代のスタッフに向けて、伝えたいメッセージがあればお願いします。

ぜひ「夢」や「希望」を持ってほしいと思います。そして、それを発信してもらいたい。自分の「やりたいこと」や「なりたい姿」があれば、私たちはそれを応援したいと思っています。患者さまを大事にするスタッフを評価し、それをさらなる力にしよう。そういったスタッフの夢を実現できる組織でありたいです。ぜひ、どんどん発信をしていって欲しいと思います。

——地域の方へ伝えたいことをお願いします。

リハビリテーション医療の基本は「希望」を持つことだと思っています。やりたいこと、なりたい自分を伝えて頂き、我々はそこにできるだけ近づけていくように努力したい。希望を持つということは、たとえ病気が治らない状況でも、前を向いて生きていく力になります。「目標達成＝終了」だけでなく、本当はその先に「こうなりたい自分」があって、地域活動など、私たちはその手助けをすべきで、そういった環境がさらに希望を持つことに繋がります。安心安全な生活を送ることができること、そのサポートをしっかり行い、信頼をいただけるような活動を続けてまいります。



祭り、復活!!

輝生会の各病院では、例年、夏に「納涼祭」や「夏祭り」として、患者さま・ご家族さま、スタッフやその家族も集まり、縁日やお神輿などを共に楽しむ催しを開催しておりました。コロナ禍により、やむなく中止の年が続いておりましたが、今年、満を持して6年ぶりに復活！各病院ともプロジェクトが立ち上がり、スタッフがコツコツと手作りで準備を整えていきました。会場づくりから、いろいろな工夫まで・・・ひとつひとつ丁寧に。今回は感染予防の観点から飲食はありませんが、ヨーヨー釣りやストラックアウト、射的などなど、お祭りの雰囲気を皆さまに存分に楽しんでいただこう！！と気合十分です。

そして迎えたそれぞれの当日。初台リハビリテーション病院は 8月24日(日)「納涼祭」、船橋市立リハビリテーション病院は 9月 28日(日)「秋祭り」、在宅総合ケアセンター成城は 9月21日(日)「秋祭り」として開催しました。

通常はリハビリで使用されている広いフロアが、この日だけはお祭り会場に！ヨーヨー釣りやストラックアウトなどのコーナーや盆踊り、お神輿が出されました。

患者さまやご家族さまも、各コーナーで真剣にチャレンジ！ヨーヨーを釣ったり的に当てたりして、晴れやかな笑顔があちこちに咲きます。また、スタッフと一緒に盆踊りや太鼓たたきも参加いただき、お祭りはクライマックスを迎えました。



久しぶりのお祭り開催で、普段の病院生活とは違う皆さまの表情を見ることができ、とても楽しいひとときとなりました。笑顔あふれる時間を皆さまと過ごせたことに、心から感謝いたします。また来年も開催できますように・・・！